

対岸工事、本格化

事務局のみなさん、後藤・村上先生、

11月1日朝から、対岸地区の現場は全領域で突貫工事態勢に入りました。大きくは四つのグループに分け、夫々が全力投球です。1) 取水堰・コンクリート構造物、2) 用水路造成、3) 交通路敷設・護岸です。これに4) 石材輸送部隊が加わります。

最も気を遣うのが河を相手の堰造成です。今冬中に堰の仮工事を終えねば既存水路に送水ができず、工事全体に及ぶ影響が必至です。今回の地点は、①甚だしい土砂堆積を防ぐ部分可動堰（堰板による土砂吐き門）、②河道を川を中心に導く「湾曲斜め堰」（予定の堰幅；300m以上）が決定され、準備を進めてきました。ミラーン・カシコート堰の経験が生かされています。

堰の仮工事は、先ずコンクリート構造物（砂利吐きと取水門）を12月初旬（川の最低水位期）までに仕上げた後、斜め堰が設置されます。それも、冬の主要河道全体を横切るものです。（これまでは大抵が複数の河道のひとつでした）。以下が今年度（3月末まで）の絶対条件かつ目標です。

1. 12月初旬が堰造成開始の最適期、許される期間は実質2か月（2月下旬は増水が始まる）
2. 構造物仕上げ後3週間以上は養生が必要で、構造物（砂利吐き）に架橋して交通路に使うこと
3. 予測される石材（巨礫）必要量はダンプカーにして約4000～5000台分、同輸送能力はフル稼働で一日40～50台で約100日分
4. 同堰の仮工事が終わるまでには、主幹用水路900m地点までの下段を仕上げ、丘側の小水路に十分送水できること
5. 以上と関連して、沈砂池Ⅰから旧水路に注ぐ分水路（約1.5km）を完成しておくこと

6. 以上の分水量を確保した上で、多数の洪水進入点を（護岸始点～約4km地点まで）増水期前に閉塞

各持ち場を今開始して、やっと間に合うということになります。川はしゃべらず、交渉できないので、人の都合を川に合わせるしかありません。

他方で、今年の異常少雨と、パキスタンからのおびたしい帰還難民が、大きな心理的圧力となっています。また、対岸シェイワ側との交渉も州の公示を待って始められます。（現在、署名式の遅れで交渉が中断している状態です。）

作業の流れは、**第一の頂点**；12月初旬～中旬；コンクリート構造物の仕上げ、両岸で巨礫を十分に備蓄、堰の仮工事開始、用水路建設が軌道に乗る。

第二の頂点；2月下旬～3月初旬；堰の仮工事終了、用水路下段を900m地点まで完成。第一回試験通水完了。

こんな工事は、日本ではありません。我が国の河川で水害が増えたとはいえ、まだ人工的に整備された流れが多く、技術力や物量は、とうてい比較にならないのです。現地では、水理実験模型で再現できず、機械力も乏しい状態です。いくら綿密に予備調査を行っても、予期せぬ洪水の一撃で地形が変わり、刻々と対応に迫られるのが普通で、指示はいきおい朝令暮改となります。江戸時代の氾濫原に水利施設を作っていると考えて間違いありません。とはいえ、経験に鑑みると、諦めずかつ欲張らなければ、勝ち目のない戦でもありません。

そのつもりで、雑な報告をお読み下さい。小生は11月下旬と来年2月中旬に一時帰国して休みます。年末年始は、場合によっては現場で越年となります。報告も節目だけで、不定期となりますが、ご容赦願います。

2016年11月1日 記

取水門・砂吐き（＝可動堰）の工事白熱

2016年11月1日



用水路のライニングを開始

2016年11月1日

